

大友

高閣失也
一昨
扶
来
之
電
報
供

卯
輔
參
後
大
臣



本局



明治十年五月七日



414
A 263
331



五月五日午前十一時西京發

岩倉右大臣殿

三條太政大臣

去ル三日電報ヲ以テ凱旋ノ節儀仗式ハ行ハセ
ラレザル旨御通知ニ及置ル處右凱旋ノ節
大臣參議橫濱マテ出向ヒ且宮内省ヨリ馬車
等差出御優待相成ルテ可然ト決セリを儀式
ニ非サレハ式尸寮ニハ關係ニ及ハス黒田出帆ハ今
晚明朝ノ内ナリ時限ハ追テ申進スベシ

五月五日午後二時五分西条藩
岩倉右大臣及 上野宮御前

御子船ハ高維丸護衛船ハテ
ボールノ善ニテ即今海軍一打
合セ申一ナリ御安定ノ上ハ直ニ
御通知致スベシ

廣布

九月五日午後三時三十分達

岩倉右大臣殿

井田少將

熊本小澤大佐ヨリ左ノ報知アリ
賊ハ現今人吉ヲ根拠トシテ大ク子ノ地理ニ據
リ兵ヲ養ヒ再挙ノ景況ナリ又第四旅團ハ
三日曉当地出船鹿見島へ出張セリ此段申
入置ク

大
文
官

大
正
官

五月五日午后四時四十分西京發

岩倉右大臣殿

三條太政大臣

五日午后一時三十分西郷中將ヨリ左ノ報ニ曰ク
熊本小澤大佐ヨリ左ノ報アリ

賊ハ現今人吉ヲ根拠トシヲクテノ地理ニ
據リ兵ヲ養ヒ再舉ノ景況ナリ又第四旅團ハ
三日曉當地出帆鹿兒島へ出張セリ此段申入
置ク



五月廿日午後五時五分西京發

岩倉右大臣殿

三條大政大臣

唯々西々中將ヨリ左ノ報アリ〇徳平山縣

系軍一ヨリ左ノ報アリ

賊兵が^赤マウニ千人加治本ニ千人計リ押

出シタリ此ハ横川ヨリ繰出ス者ト察入右

ニ付今度当地ヨリ鹿見島へ差遣シタル

才田^赤隊團ハ昨日同所着ニ付其兵ハ直ニ

重富ヨリ上陸加治本ノ賊ヲ討シムル苦ナ

リト一昨日三日附ヲ以テ川村大山ヨリ申表

タル未々開戦ノ報知ハナケシテ不取敢此段

申入シ置ク

大政大臣

五月五日午後九時四十分西京発

岩倉右大臣殿

三條太政大臣

五月三日飛信御書翰唯今着ス

五日六日午前十一時五十分神戸在甚

岩倉右大臣殿 為史島三 河村兼軍

大 蒲生 千餘人其地
ヲハクチニ屯集ノ賊兵ガモウニ
者有ニ進シお見ヘ今曉リ賊ニ計リ
伊波ヨリ五山ノ方ニ標出し唯今モ襲来
スルノ勢ヒアリ守備最重ニお立賊ノ東ニシ
テリ六ヶ所曉テ四捨廻モ着シ是ハ加治木
ニ廻スノ廻リニラモ一先ハ吉地ニ上陣セシ
幸地ニ於テ互戦スルハ此後ノ要置幸年と
ナレバ是ヨリ進軍 良カ 口ウ策ニ出シば息
急ム事アリ

Blank lined area on the right page.

五月六日午辰四時

岩倉右大臣殿

禰戸 黒田 参軍

下宿本司午辰五時 玄世九三其地一向
ヲ出帆来八日午前 横濱一着ノ候リ
ニ候

五月六日午前 時 祇戸桑玄武九意組松田時敏
ヨリノ電報

長官玄武九意組本日午後出帆明後日
午前入津

右川黒田参議殿着時限開拓使へ洞合候処
答書ニ副へ差越候事

五日午の午後四時十分西より及
定之なるに及

去の四日、新公急な川村より軍より、
報知のし、所集ス友ノ道
ヲ、ク午ニ屯集ノ賊兵がモウニ千余
人其他各所ニ追々お見くらへ成り、ヨリ
賊三千計、俾あるヨリ谷山ノ方ニ揮出
望方ノモ、親親集スルノ路ニアリ守備者
多クあり、賊ノ来ルヲ待又之成之ヲ、四
指、悉モ及、之、ハ加治木ニ回ス、因リ、
変、之、南地ニ上陸セリ、南地ニ於テ
兵、氣、スル、ハ此後ノ事、甲、乙、ニ、十、日、

大正官

是より進軍 口^口ウ^口第^口出^口ル^口之^口序^口也
名^名より^名出^名ル^名也

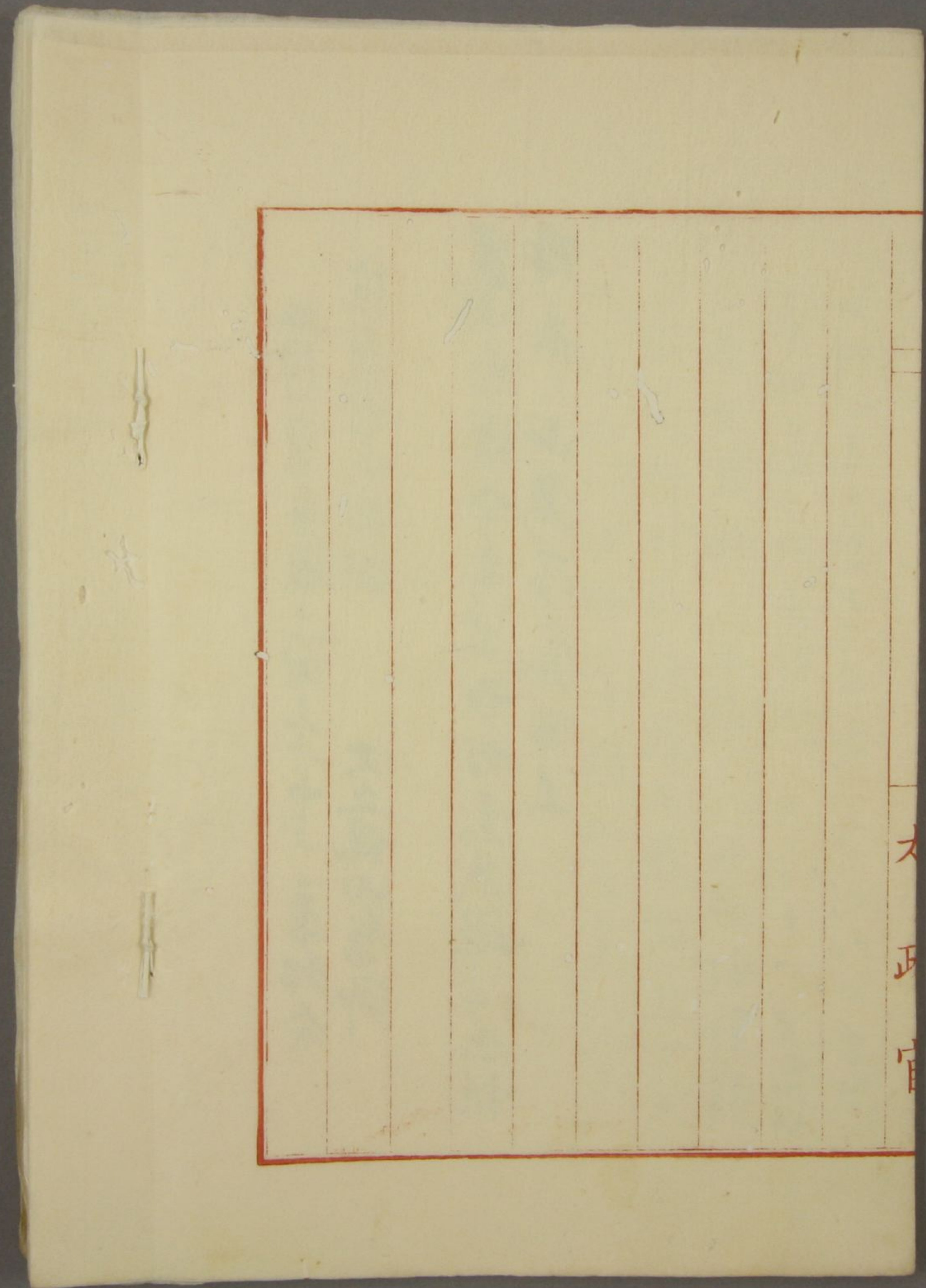
二月廿六日午後九時四十分西へ向
出立の儀あり

軍^軍田^田多^多儀^儀より^{より}左^左へ^へ進^進出^出ル^ル也
廿六日東京へ出立の儀あり
申^申又^又

申越シタリ然レニコト方ノ是ハ一統日
コト相違シテ所々根際ノオ、リキハ分違
シ居ル家郷ノ支族ハ八十名内順願
ト出ルレ報知アリ此段亦報知ニ及フト
只今更々オ得ヨリ報知アリ

五月五日壬辰十有二字ウテ 高野桑
岩倉方大臣殿 大之保田郷

黒田春海今午後申付去武野ニ出杭
降参ス此処有る事申上



太
西
官